



記録のない沢に行ってみた

## 那須 鶴沼川河内川&楽翁溪

小川

【日時】 2011年7月9日(土)～10日(日)

【メンバー】L小川、佐藤、栗原

梅雨も後半になり、天候も不安定ながら強力メンバーのお二方が揃った。事前の天気予報もイマイチでいろいろとルートを考えてたが、行けたらもうけ物！と長く隠し玉にしていた「記録のないゴルジュ（と思われる）の沢」である河内川へと向かった。

結果を隠しても仕方ないのでもう告白してしまうが、全くもってゴルジュの沢ではなかった。やー外れた。火山系の沢のナメが一瞬現れてはすぐにゴーロになるような沢だった。お付き合い頂いた栗原さん、耕至さんには自分の趣味に付き合っていて、どうもありがとうございます。

前夜、白河ICより羽鳥湖の道の駅に向かうが、羽鳥ダムの道は崩壊のため行けず道の途中にて幕営とする。山行前から言われていたが地震の影響はそこかしこで見ることができた。翌朝、河内川にかかる橋より入渓する。天気は上々。橋より30分ほどで馬尾滝20m。スダレ状の優美な滝である。ここから地形図上はゴルジュ地形となるが、はたして…。河原をいくと両脇が泥壁となり来るか来るかと歩みを進めるがいつこうにゴーロ。そして両脇の泥壁は左右から沢が入ってなくなっていた。ああ、やっぱりこうなるのね。

しかし、すぐに100mほど綺麗なナメが現れ、あら意外といいじゃん？とテンションが上がってくるが、すぐにゴーロ。1308mPへの支流を分け、巨岩帯を登ると小さな滝があり、この上はいいナメとなっているがここは50mで終わってしまった。ガク。二俣にて一番悪そうな左俣へ向かう。初めて滝らしい2m滝、4m滝が現れる。ここを越えると胸まで浸かるミニゴルジュ。既にゴルジュは期待してなかったのも、お！と思って淵を越えともうゴーロになっていた。栗原さんが少し遠い目をしているのが心に痛い。最後に100mくらいナメとナメ滝をフェルト靴ギリギリのフリクションで越えてひと遊びすると湿地帯へと川は消えていった。

地形図通り登山道があると思って消え消えの川をたどるが水もなくなるため、右岸のヤブをこいで林道の方へ上がった。ここも既に廃道で、羽鳥湖スキー場の車道にでるまでも踏み跡が薄く大変だった。登山道部分など既になくなっているようだ。板小屋山より河内川の支流をおりて元の橋へと戻った。

本来なら一泊の計画だったが一日で下りたので、耕至さん提案の楽翁溪へ向かうことにし、二岐温泉にて体を洗って羽鳥湖の道の駅にて幕営とする。

楽翁溪は白河の方へ戻り千歳川沿いの道を行くが途中で土砂崩れとなっていた。その

手前で入渓とする。

こちらも地形図は崖マークが続き、少し期待をしていたが本当に穏やかな沢そのもので、滝もゴルジュもないところだった。しかし震災の影響と思われる土砂崩れが10か所近くあり、揺れの大きさは推して知るべしである。今回は雄滝、雌滝までとしたが、試しに雌滝の上まで行ったみたところ、軽くみた範囲では幅広いナメがずっと続いていた。長さで300mくらいはあるだろうが確認したのがそこまでなだけで、上流も続いていることだろう。また機会があれば源流までみてみたいものである。

【グレード】河内川1級、楽翁溪1級。

【行程】7/9 河内川出合(8:00)～

林道(13:30/13:40)～河内川出合(16:30)

7/10 楽翁溪入渓(9:30)～

雄滝・雌滝(10:40/11:10)～入渓点(12:30)

【地図】甲子山、新甲子



【河内川のナメ】



【楽翁溪 雄滝】

